

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月 11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173600537		
法人名	社会福祉法人希望の里		
事業所名	グループホームむつみ		
所在地	苫小牧市字樽前159-198 (電話) 0144-68-6231		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年2月18日	評価確定日	平成20年4月11日

【情報提供票より】(20年1月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 11人, 非常勤 3人, 常勤換算	12.19人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1~2 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	340 円	昼食 420 円
	夕食	440 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

### (4) 利用者の概要(2月18日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	5	要介護2	3
要介護3	6	要介護4	2
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 84 歳	最低 74 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	苫小牧緑ヶ丘病院・苫小牧東病院・柳原歯科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は樽前山の麓に位置し、近隣には公園・キャンプ場があるなど自然豊かな環境に立地している。事業所内全体が温かくゆったりとしており、家庭的な雰囲気を有している。また、ゲストハウスを隣接し、利用者家族が宿泊できる体制を整えている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価における改善課題は特になし。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	日々のケアサービスを振り返る機会とし、全職員で話し合いながら自己評価に取り組んでいる。また、外部評価結果を更なる質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年は、運営推進会議を2回開催し、事業所の運営状況等について報告している。今後は、定期的に会議を開催し、構成員との活発な意見交換等により助言等を受け、事業所の運営に反映させる取り組みが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情処理委員会を設置し、事業所内に掲示している。また、職員は日頃から利用者家族とのコミュニケーションを大切にし、家族が気軽に意見・要望・苦情等を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	夏祭り等の事業所の行事に近隣住民が参加したり、地域ボランティアが事業所を来訪するなど、地域との連携が深まりつつある。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の家庭的な理念を作り上げている。	○	今後は、地域においてその人らしく生活することを支える内容を盛り込んだ理念を検討することが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事業所のホールに掲示するとともに、月に1度の職員会議で話し合い、共有しながら日々実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り等の事業所の行事に、近隣住民が参加したり、機関紙を年に4回地域に配布するなど、地域との連携を図っている。	○	今後も、地域との交流をより一層深めるよう取り組むことが期待される。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価を日々のケアサービスを振り返る機会とし、全員で話し合いながら取り組んでいる。また、外部評価の意義・目的を理解し、更なる質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は運営推進会議を2回開催し、事業所の運営状況等について報告している。	○	今後は、定期的に会議を開催し、構成員との意見交換により意見・助言等を受け、事業所の運営に反映させる取り組みが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡会やケースワーカー等と協議し、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	機関紙とともに個別の便りを送付し、利用者の様子を定期的に伝えている。また、必要に応じ、電話やメール等で家族に連絡したり、家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態等について報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理委員会を設置し、事業所内に掲示している。また、職員は家族が気軽に意見・要望・苦情等を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等があった場合は、そのつど利用者に説明し、馴染みの職員が対応するなど、利用者へのダメージを最小限に抑えるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を実施するとともに、苫小牧グループホーム連絡協議会主催の事例検討会に参加し、職員の資質向上に努めている。	○	今後は、定期的に外部研修に参加し、職員の更なるスキルアップを図ることが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	苫小牧グループホーム連絡協議会主催の事例検討会に参加し、同業者との交流を図っているが、他事業所と相互訪問等を行うまでには至っていない。	○	今後は、同業者と交流する機会を多く設け、意見交換や情報交換等を行いながらサービスの質の向上に取り組むことが期待される。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者本人・家族に事業所を見学してもらい、利用者が徐々に事業所の雰囲気に馴染めるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活歴を考慮し、一人ひとりの意向を大切にしながら、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の表情・しぐさ・会話等からも一人ひとりの希望や意向の把握に努め、その人らしい生活となるよう支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人・家族の希望を採り入れ、一人ひとりの出来る事を把握し課題を分析しながら、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとの見直しを行うとともに、状況に応じてそのつど話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出時の付き添い・通院時の送迎・祭りなどの行事への参加など、柔軟な支援を行っている。また、隣接しているゲストハウスに家族が宿泊できる体制を整えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医への受診支援を行い、月に1～2度職員付き添いにより通院介助を行っている。また、緊急時に医療機関と連携を取れるような体制を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期に向けての対応指針を定めており、入居時に家族に説明している。また、状況変化に応じてそのつど協議し、関係者全員で情報を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の個性を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることのない対応に徹している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れは決まっているが、利用者の希望を尊重した支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりたたみ・水配りなど、利用者の出来ることを職員と一緒にいき、食事が楽しみなものになるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせた週に3回の入浴支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫・お手玉・収穫物の仕分けなど、利用者の生活歴や趣味に合わせた楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬期間の散歩は行っていないが、非常階段等を利用し、気分転換や運動不足解消などの支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯は防犯上の理由から施錠しているが、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を実施するとともに、緊急時に地域から協力が得られるよう働きかけている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量に関して主治医に相談し、適切に支援している。また、栄養士に献立を確認してもらい、栄養バランスの取れた食事内容となっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所の建物は回廊式になっており、全体的に明るく広々とした造りである。また、共用空間には雛人形や手作りののれんなどの装飾品により、季節感や生活感を感じられるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みの物が持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。